▲市内農家から借りたほ場でさつまいも苗の植え付けを６月に行う鹿屋幼稚園園児の皆さん。自分たちで穴を掘り、そっと苗を入れて「大きくなってね」と笑顔で声をかける。

芋から学び 食に触れる

さつまいもの苗植えや芋掘りなどは県内では学校行事としてもよく行われています。本市では鹿屋農業高校が「かのや紅はるか」の生産者認定に取り組むなどブランド化を進めています。ここでは芋栽培を通して育む教育について紹介します。

培った技術を受け継ぎ 安全で高品質な さつまいもを届ける

本校ではさつまいもに加えてしょうが・落花生など、露地野菜を栽培しています。さつまいもに関しては、「べにはるか」のブランド化を進め、平成29年に「かのや紅はるか」の生産者認定を取得。その後、バイオ苗の栽培や倉庫の整理などのさらなる環境改善に努めて、農産物の安全確保や良い農業経営を実現する取り組みであるＪＧＡＰ（ジェーギャップ）認証を令和元年に取得し、昨年は日本一のさつまいも品評会である「日本さつまいもサミット」で特別賞を受賞することができました。

さつまいもは4～5月に植え付けを行い、8～11月に収穫します。収穫後は次期作の準備や輪作、収穫物の販売などがあり、1年間はあっという間です。3年生になってからは農場に行く頻度が増え、日々の変化を感じることが多くなりました。畑の小さな変化に気付いて、手をかけることで良いさつまいもができます。今後も鹿屋から品質の良いさつまいもを生産できるよう、これまで学んだ生産・管理方法を引き継いでいきたいと思います。

▼「かのや紅はるか」の育成や収穫の様子。次世代への指導や徹底した管理によって取得した「ＪＧＡＰ認証」を維持するため、学校を挙げて日々努力している。収穫は手作業で丁寧に行われている。

▲ＪＧＡＰ認証やさつまいもサミットなどこれまでの取り組みの成果が実を結んでいる

鹿屋農業高校農業科３年
松木（まつき） 有輝（ゆうき） さん

芋を通じて育む 地方や心の豊かさ

今号を通して紹介した薩摩芋（さつまいも）を取り巻く色々なストーリー。より高品質のさつまいもを作るため、日々懸命に努力を続ける生産農家の方々や専門家の皆さん。地域のため、美味しさをより多くの人に届けるため、飽くなき追求心と共に日々研鑽を積む事業者の皆さんの様子を垣間見ることができました。また、さつまいもは生産の第1次産業からサービスの第3次産業、その流通発展としての6次産業に留まらず、教育の一環としても取り入れられています。さつまいも産業を支えるということは地域の存続という大きな役割を担うだけではなく、経済的なことだけでは得られない「地方の豊かさ」や「心の豊かさ」につながっているのかもしれません。

おいもフェス開催決定!!

鹿屋市農業まつり内スペースでおいもフェスブースを出展！ご来場お待ちしています！

日時　11月23日（水・祝）10:00 ～ 15:30
場所　霧島ヶ丘公園
入場料　無料